

いただきました。ヘリコバクターピロリ感染における胃がん発生のメカニズム、遺伝子型によって胃がん発生率が違うなどの報告があり、興味深い内容でした。

特別講演は国立がんセンターの津金昌一郎先生に「生活習慣とがん」という題で講演していただきました。喫煙・飲酒・食習慣などの生活習慣と胃がん・肺がん・乳がんなどがどのように関連しているかを示していただき、がん予防にはどのように生活習慣を変えていけばよいかを示されました。またこのような研究のためにはがんの罹患率の計測が必須であり、質の高いがん登録の整備の必要性が強調されました。

シンポジウム「地域がん登録の利用について」では、臨床的な利用方法として「地域がん登録を利用した大腸がん検診の評価」(松田一夫先生)、「内視鏡検査の精度管理」(細川治先生)の2題、疫学的な利用としては「環境と発がんの関係 地理情報解析システムを使って」(三上春夫先生)、「住民検診とがん登録のリンク-ジ」(岡本幹三先生)の2題、行政的な利用方法として「がん対策推進のための地域がん登録の活用」(津熊秀明先生)、「地域がん登録の行政への利用(アンケート調査より)」(富士光恵先生)の2題の計6題の発表がありました。

個別発表終了後、がん登録の利用法方法を広めることにより、一般の臨床の先生方に地域がん登録の必要性をアピールすることが地域がん登録の精度向上に役立つかどうかなどについて、総合的な討論がなされました。

ポスター演題は9題の応募があり、その中から岡本幹三先生の「高血圧症とがん罹患の関連性に関する後ろ向きコホート研究」が最優秀賞に選ばれました。

前日の実務者研修会では「院内がん登録の整備と地域がん登録」をテーマとして、福井県立病院、福井赤十字病院、山形県立がん・生活習慣病センター、大阪成人病センターからそれぞれの病院における院内がん登録状況が報告されました。近隣の地域がん診療拠点病院で院内がん登録を担当されている方を交えて、院内がん登録を整備するにあたってのいろいろな問題点が議論されました。その後自由討論に移り、まず国立がんセンターの祖父江先生から、がん登録普及のために国立がんセンターがやろうとしていることが報告され、それに対する意見・要望などが終了時間の延長が必要なほど熱心に行なわれました。この研修会が、日々の地域がん診療病院の院内がん登録と地域がん登録の連携に少しでも役立つことを願っています。

また総会研究会当日の昼食時には、厚生労働省生活習慣病対策室の奥田浩嗣先生を囲んで話し合いが行なわれました。個人情報保護法と地域がん登録の関係などに対する厚生労働省の考え方など、貴重なご意見を聞くことが出来ました。

最後になりましたが、講師を引き受けていただきました先生方、参加していただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

第13回総会研究会の開催について

辻 一郎
宮城県新生物レジストリー・東北大学大学院医学系研究科

この度、地域がん登録全国協議会の第13回総会を担当させていただくことになりました。ここ宮城の地で総会を開催いたしますのは今度で2回目となりますが、関係者一同、心を新たに頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

まず日程・場所ですが、平成16年9月2日(木)に実務者研修会を、翌3日(金)に総会研究会を、ともに宮城県庁の講堂にて開催する予定であります。

実務者研修会では、多重がんの取り扱い、進行度分類のコーディング、生存率の計算などについて、皆様のご理解・ご経験を深めていただけるような実践的な機会を提供できるようにと、考えております。

総会研究会では、特別講演として、東北大学名誉教授・久道茂先生(宮城県病院事業管理者・宮城県立がんセンター総長)に「宮城県におけるがん登録と疫学研究」と題して、本県のがん登録事業の沿革を振り返っていただくとともに、がん登録にもとづく疫学研究について今後の方向性を示していただきます。

教育講演では、慶應義塾大学法学部教授の安富潔先生に「個人情報保護とがん登録」、東北大学大学院医学系研究科腫瘍外科学教授の大内憲明先生に「乳がん検診ガイドライン作成におけるがん登録の役割」と題して、各々ご講演いただきます。前者では、がん登録と個人情報保護をめぐる諸課題についてまとめていただき、後者では、がん登録が臨床指針の作成にどのように貢献できたかを臨床医の立場から述べていただき、ともに今後のがん登録のあるべき姿を考えるうえでの参考としていただければ幸いです。

そしてシンポジウムは「大規模コホート研究とがん登録」というテーマで、国内の数ある大規模コホート研究について、その現状とがん登録との関わりについて語っ

ていただくことを計画しております。これをもとに、疫学研究と国民の健康の増進に貢献するための、がん登録のあり方について、議論を深めることができると考えております。

なお例年通り、ポスター発表（優秀ポスターに対する各賞の贈呈）も企画しておりますので、どうか奮ってご参加いただきたく、お願い申し上げます。

開催される9月初旬、東北では早くも秋の気配を感じることができる頃かと思えます。がん登録をめぐるホットなディスカッションの合間に、地元の風物にも触れていただき、夏の疲れを癒していただければと存じます。第13回総会の開催に向けて、精一杯準備を進める所存でありますので、皆様方ご多数のご参加、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

「5大陸のがん(CI5) Vol.8」刊行なる

松田 徹

山形県立がん・生活習慣病センター がん対策部

昔々、30年も前の学生のころ、世界のがんの分布はこんなにも違うんだということ、夢のような気持ちで聞いたことがあるように思います。今、考えますと、そのようなデータを示せるのはCI5しかなく、もちろん今でも学生の講義に、また世界の様々な地域のがん罹患の多様性を知る指標として、利用されています。CI5の主な目的は、全世界の異なった地域におけるがん罹患頻度の違いを示すことにあります。

データを見ますと、胃がんの罹患率は日本の本県が1番ではないかと思っていたのが、中国にもっと高い地域があるなどということも読み取れます。このCI5 Vol.8ではCD-ROMが充実し、本が薄くなったことが特徴です。CD-ROMには性・年齢別集計されたデータが収録されており、統計パッケージでの利用が可能です。中には“CI5VIII”と名づけられた分析用プログラムも含まれています。

このデータブックには日本ではVol.1に宮城県の1959年からのデータが掲載され、5年後のVol.2では岡山県が、Vol.3からは大阪府が加えられた経緯があり、我が山形県はVol.6から掲載されるに至りました。今回のVol.8には日本からは広島市、宮城県、長崎県、大阪府、佐賀県、山形県の6登録のデータが収録されました。この顔ぶれはVol.6から変わっていません。お隣の韓国は前回はKangwhaの1地域だけだったのが、今回は4地域に増え、詳しくは存じませんが、中央がん登録プログラム

(KCCR)の存在が大きな力になっているのでしょうか。今回は全世界の235登録から提出されましたが、49は採用されず、57カ国、186登録からの掲載になりました。アジアからはパキスタン、オーストラリア、ヨーロッパからはベルギー、リトアニアが新しく加わりました。

日本は広島市を除いては、DCOが高すぎて、登録精度に問題があるとの理由から、条件付きの掲載になりました。広島市は6%でしたが、その他の府県は2桁で、北アメリカ、西ヨーロッパ、オセアニアでは10%を超えたところは、わずか4登録のみでした。これは極めて憂慮すべき事態です。最近、中国でも、北京にがん登録のナショナルセンターが開設されたようで、さらに正確なデータ集積が行なわれようとしています。わが国も法的な整備等々を行い、地域がん登録がもっと深く国民の健康維持に寄与できる日が早く来ることを希望するものです。

SEER*Stat についての紹介

杉山 裕美

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

SEER*Statは米国NCI(National Cancer Institute)のSEER(Surveillance, Epidemiology, and End Results)から提供されているフリーのWindows版統計解析ソフトウェアです。SEERのがん登録データ(SEER Public-Use Data)を用いて以下の4セッション Frequency and Rate Statistics(死亡率・罹患率等の解析) Trends Over Time(記述統計に基づく時系列の変動解析、Annual Percent Changeモデル解析など) Survival Statistics(実測生存率、相対生存率の解析) Limited-Duration Prevalence Statistics(有病者数推定)の解析が可能であり、がん記述疫学として必要な解析を網羅しています。プログラムを書くのではなく、マウス操作で解析を進めることができます。またデイクシオナリーという変数の定義づけ機能については、自分の好きな定義にカスタマイズすることができます。

SEER*Statの中で用いられるSEER Public-Use Dataは腫瘍単位のデータベースであり、1973年～2000年までの9つのがん登録から2,844,625レコードが収録されています。さらに1992年～2000年では4つのがん登録データが加わりさらに3,116,604レコードが収録されています。SEER Public-Use Dataの使用には、研究以外の目的で使用しないことや個人を限定するような解析をしない等と誓約するAgreementに署名し、SEER宛にFAXする必要があります。手続きが完了するとIDとパスワードをメールで送信してくれ、それらを画面上で入力すると、ダウン